

# もくじの10年

## ナトリウム事故後の空白

「世界が原子力の将来を素直に語り合つてよくなった。原子力委員会の前委員長、藤家洋一(69)は、朗らかな声で話し始めた。

委員会を去る際、「新しい酒は新しい革袋で」と言葉を残し、今の近藤駿介委員長の下で進められている「原子力政策大綱」(原子力研究開発利用長期計画＝長計)の策定についてコメントを控えるなど、活動の軸足は国内から国際問題へと移した。フランス原子力庁の顧問を務める傍ら、ドイツ、中国、韓国、そしてアメリカへ飛び、原子力関係者とのネットワークを築き、近い将来に直面するエネルギー危機への処方せんを探る日々だ。しかし、国内問題を忘れてたわけではない。もんじゅ事故後の10年、そしてこの国の将来像を語る時、柔和だった眼鏡の奥の目が少し険しくなった。

＊ ＊ ＊

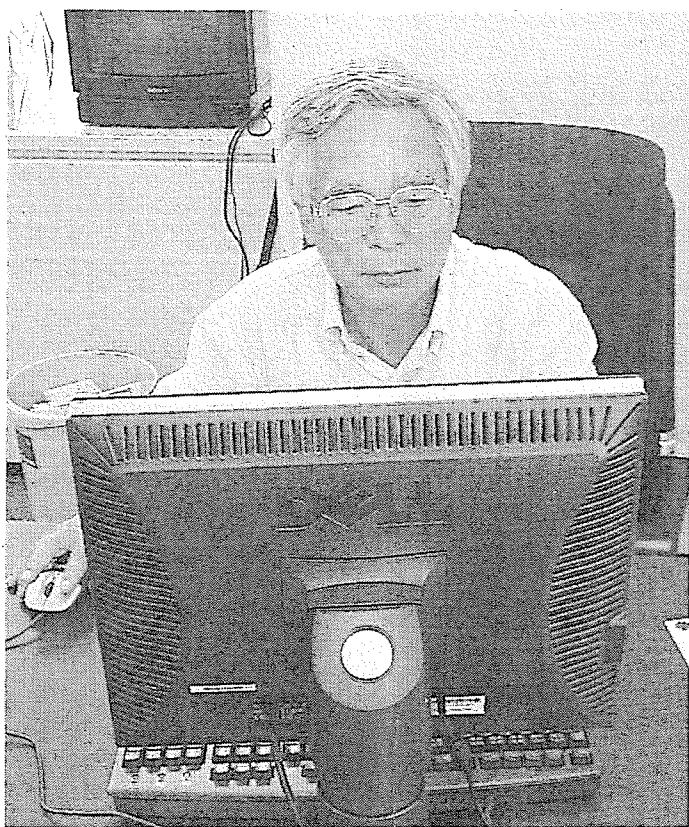
東京都内の雑居ビルの一室。「Nuclear Salon Fujie」と記された事務所の扉を開けたのは7月上旬だった。

委員長時代も含め9年間務めた原子力委員会を昨年1月に卒業した後、一学者に戻ったが、国内外からの相談者が絶えないため間借りした。サロン(サロン)とは、肩ひじ張らない藤家にふさわしい名だが、語られる内容、情報は最先端を行く。

「原子力政策は大局観を持ってやる必要がある。10年、100年、1000年というタイム

# 国内目配り 世界で活動

原子力委員会 藤家洋一 前委員長



世界から寄せられるメールをチェックする藤家。原子力の国際的な問題に取り組むという

## FBR開発 100年スパンで

スパン(時間の幅)のなかで何をやるのか。そして、もんじゅを含めた高速増殖炉(FBR)開発は、100年の時間軸のなかで語られるべき課題だと説く。

FBRの構想は、1950年ごろに出てから約半世紀だ。まだ実用化に至っていないことを批判する声があるが、「巨大なシステムは、最初の考えから実用までセンチュリー(100年)はかかるということ。原子力政策大綱の中でFBRサイクルの実用化時期について「2050年ごろから商業ベースでの導入を検討する」となっているのは、藤家の考えと符合する。だから、ナトリウム漏れ事故からもんじゅが10年近く停止し

たままになっていることへの嘆きは大きい。「原子力の利用全体から見ると一番痛いのは、技術者を殺した」ということ。金が無駄になっているという話ではない。2050年までの開発の道筋に、技術者の継承の断絶、空白域を作ったことに政策責任者だった一人として自責の念が消えない。

＊

週7回で始めたサロンは、今では週5日の「盛況」ぶりだ。カザフスタンの原子力関係者も、藤家詣りで訪れる。そこに何が見えるのか。視野を広げれば、この10年間で原子力を取り巻く現状は確実に良い方向に進んでいるという。カギとなっているのは、地球

＊

温暖化問題。温室効果ガスを生み出す、石油に代表される化石燃料は曲がり角を迎えているのは明らかで、こうした状況を「(火を使う)化学反応の文明」から「核反応の文明」へ非常に緩やかに移行している」と評した。

100年、1000年、1万年……。大きな時間の流れのなかで原子力の、エネルギー供給の問題を考える重要性を重ねて強調した。

＊ ＊ ＊

しかし、遠い先を見ただけでは当面の政策に対応できない。軽水炉でプルトニウムを燃やすプルサーマル、その技術を次へとつなぐ。原子力委員長代理をしていた2000年に現行の長計を策定した際、こうした考えを「夢と現実のバランスある共存」と表現し、遠近両用の備えが必要なることを訴えた。

原子力委員会 1956年に発足。原子力の研究開発などの政策を決める。省庁再編により、2001年から内閣府長が藤家氏。

＊

この時の長計策定で、もう一つこだわったことがあった。それは60年前、広島、長崎に投下された原爆のことだ。

98年8月、委員長代理室に当時の広島市長、平岡敬を招き、こう問った。「原子力の平和利用を認めますか」。平岡市長は「分かります」と答えたという。それまでも長計は作られていた。しかし、自分が主体となっていたかかわる時は「そこからスタートしないと駄目だった」と振り返った。

もんじゅ「8・6」が巡る。被爆国であるという原点を胸に刻みつつも、もんじゅを例に原子力の平和利用への理解も求めた。「運転再開後も恐らくトラブルに見舞われるだろう。しかし、それを許容できる社会の成熟度がこれから問われることになる」

9月にはドイツで、高速炉のワークショップを開き、もんじゅの開発推進を訴えるつもりだ。藤家は、国外では高速増殖炉という言葉は使わない。「世界がこぞプルトニウム(Pu)を減らそうとしている。エネルギー源を欲しい時は(燃やしながらPuが増える)『増殖炉』でいいが、環境保全という視点を考えると『高速炉』がいい」という。グローバルスタンダードを踏まえつつ、国内問題にも目を配れる。サロンは半分、千客万来の状態が続いてきた。

(敬称略) (秦重信)